

感謝の言葉を

11月15日に収穫フェスティバルが行われました。

春から5年生が中心となって行ってきた米作りの活動の締めくくりで、お世話になった地元農家の近藤さんをはじめ、協力してくださったボランティアの方々への感謝の気持ちを表す会でもありました。当日は、祖父母参観も兼ねていたために、たくさんの方が参加し、みんなで餅つきをして、雑煮やきなこ餅を食べ、収穫の喜びも味わいました。雨が降る寒い日でしたが、会場の体育館の中は、「ありがとう」の声が飛び交う、とてもいい雰囲気でした。これまでご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。



さて、23日は勤労感謝の日でした。昨年度のこの日、日本能率協会が全国の20歳から69歳までの就労者を対象に、「仕事上言われて最もうれしい言葉」の調査結果を発表していました。その結果は、以下のようになりました。

【男性】			【女性】		
1位	ありがとう	34.0%	1位	ありがとう	43.2%
2位	おつかれさま	16.4%	2位	よくやったね	15.1%
3位	あなたにしかできない	13.3%	3位	あなたしかできない	14.4%
4位	よくやったね	12.9%	4位	おつかれさま	8.8%
5位	やる気だね	3.4%	5位	すてきだね	2.5%



男女とも、言われて最もうれしい言葉が圧倒的に「ありがとう」でした。また、仕事へのやりがいと感謝の言葉の関係を調べたところ、やりがいを感じている人の約8割が感謝の気持ちを積極的に伝えているのに対して、やりがいを感じていない人は約5割にとどまったともありました。仕事のやりがいや成果の背景には、「ありがとう」などの感謝の言葉が影響していることが分かったそうです。

一方、仕事で感謝してくれる人は誰かを調べると、男女とも1位は「同僚・先輩・後輩」、2位は「家族」、3位は「上司」と身近なところにいることが分かりました。しかし、「誰からも感謝されていない」と回答した人が約4割いて、年代別では40歳代で46.6%と半数近いということも明らかになりました。

さらに、食品メーカーのネスレによる別の調査では、1日に「ありがとう」を言う平均回数は7.5回で、言われる回数は4.9回。そして、「ありがとう」を言われる回数別に幸福度を調べたところ、「ありがとう」を言う回数に比例して幸福度が高くなり、20回以上言われる人の幸福度は、全く言われない人の約1.5倍。言う回数の多い人よりも、言われる回数の多いの方が幸福度が高いということも分かったそうです。

これらのことから、「ありがとう」は人と人をつなぐ大切な言葉であり、みんなが積極的に「ありがとう」を言えば、その結果、自分自身が感じる幸せや景気まで良く感じていくという正の循環が生まれることが明らかです。

金屋小は【笑顔とありがとうがあふれる学校】を目指しています。今年も残りわずかです。「ありがとう」の言葉を家庭・地域でさらに増やしていきましょう。(文責：校長)

輝く子どもたち

<11月15日 収穫フェスティバル>

11月15日の収穫フェスティバルでは、PTA学年部の皆様からご協力をいただき、みんなでおいしく、雑煮ときなこもちを食べることができました。今年も、夏休みも含めて5月から10月までの間、5年生が学校田のお世話をしました。収穫フェスティバル第一部でも、とても上手に発表できました。活躍した5年生の感想を紹介します。



5年 志村 さん

ぼくは、収穫フェスティバルでがんばったことが三つあります。

一つ目は「始めの言葉」です。練習の時はお客さんたちがいなかったので、きんちょうしなかったけど、本番には大ぜいのお客さんがいてきんちょうしました。でも、大きな声で、はきはきと言うことができたのでよかったです。二つ目は「劇」です。と中でせりふを忘れそうになったけど、思い出して言えたのでよかったです。三つ目は「もちつき」です。きねを持った時はすごく重たかったです。大人の方は、その重たいきねで速くもちをついているので、すごいと思いました。

今年は、収穫できたもち米の量が108キログラムと少なかったです。来年の5年生には水の管理などをがんばってもらって、収穫するもち米の量を増やしてほしいです。

5年 高木 さん

わたしが収穫フェスティバルでがんばったことは、発表です。そして、楽しかったことはもちを食べたことです。

発表は、見ている人が分かりやすいようにみんなで工夫したり、大きな声で発表できるようにしたりしました。本番では、しっかりできるか心配だったけれど、練習どおりに、きちんと大きな声で発表できてよかったです。もちを食べるときは、もちつきもしたので、とても楽しかったです。みんなもちつきを楽しそうにやっていたし、もちもいっぱい食べていたので、よかったです。自分たちが作ったもち米でおもちをついて食べたので、とてもおいしかったです。家の方は、おかわりもしていたので、うれしかったです。

来年の稲かりや収穫フェスティバルも楽しみです。

5年 長谷部 さん

ぼくは、収穫フェスティバルでがんばったことや楽しかったことが三つあります。

一つ目は、準備と片付けです。準備では、かべかざり作りが大変だったけど、がんばりました。片付けでは、ごさを片付けたり、長づくえを運んだりするのをがんばりました。二つ目は、もちを食べたことです。みんなといっしょに話をしながら食べたのが楽しかったです。三つ目は、発表と発表練習です。発表練習では、せりふを覚えたり、大きな声を出すようにして、がんばりました。本番の発表では、その成果を発揮することができました。

来年も、おいしいおもちを食べたいです。

「鮭のぼりプロジェクト」進行中!



6年生が総合的な学習の時間「住みよいふるさとといつまでも」の学習で「金屋を元気にするために私たちができることは何か」を考えました。その中で「『鮭のぼり』を作って地域（金屋小の校区）を盛り上げよう!」というアイデアが出ました。

11月15日（水）、収穫フェスティバルの日の9:15～10:05に「金屋お茶の間会議」を開き、金屋商工会の皆さんや地域・保護者の方と一緒にどんな鮭のぼりを作りたいかを考えました。

11月27日（月）、金屋商工会の皆さんが「お茶の間会議」で出たアイデアを模型にして子どもたちに見せました。そして、その模型を元に「『鮭のぼり』がもっと良くなるように」「どのように活用できるのか」を考えてほしいと子どもたちに相談しました。



子どもたちはグループでいろいろなアイデアを出し合い、商工会の皆さんに提案しました。そのアイデアを商工会の皆さんがさらに具体化して子どもたちに紹介する予定です。

6年生と地域、保護者の方のアイデアから、どんなものが生まれ、地域を盛り上げることができるのか、とても楽しみです。

鮭について学ぶ

6年生の総合的な学習の時間では村上の自慢である「鮭」についても学習します。11月21日（火）、荒川漁業協同組合の方に来ていただき、鮭の採卵、受精を体験しました。受精した卵は水槽に入れ、3月の放流に向けて大切に育てています。また12月1日（金）から3回に渡っての「鮭の塩引き」体験が始まります。地域、保護者の方から教えていただいたり、お手伝いいただいたりして、2学期末には「my 塩引き」を持ち帰る予定です。



児童集会「ウィンターフェスティバル」

毎年恒例のイベントです。今年は、学年ごとにお店を出すのではなく、わんぱくグループ（異学年交流班）でお店を出します。現在、授業時間や休み時間を使ってお店の準備をしています。参観もできますので、ぜひご来校いただき、子どもたちの出店を楽しんで下さい。

日時 12月8日（金）午後1時10分～午後3時30分

会場 体育館、各教室

※ 全校6時間授業となります。

